

令和元年度

大阪府立寝屋川高等学校

学校教育自己診断

結果と分析

実施日 令和元年 12 月

ホームルームで実施

実施対象 生徒 1088 / 1118 (97.3%)

保護者 843 / 1118 (75.4%)

教職員 53 / 71 (74.6%)

生徒編

質問全15項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度は9項目(H30H29ともには9項目)だった。昨年度に比べると、15項目全てにおいて肯定的回答のポイントは向上している。

○「授業以外の講習・補習等、学力向上の場」の評価が91.2%と高評価であるのに対し、「教育方針や教育計画を分かりやすく示している」が78.7%、「自分で計画を立て、家庭学習する時間の確保」は69.3%と低く、自学自習に課題を感じる。授業改善についての取り組みを組織として取り組み始めたので、今後の伸びに注目したい。

○強い肯定で50%を超えて高かったのは「部活動に意欲的で成長を感じる(入部者のみ)」57.4%、「入学してよかったと満足」55.9%、「授業以外の講習・補習等、学力向上の場」52.1%、「学校行事に積極的に参加」50.9%で、寝屋校生の活力を感じる。様々な学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底を今後も進めていく。

○強く肯定した生徒が30%以下であった項目は、昨年に引き続き「教育方針・教育計画の分かりやすさ」27.2%、「健康の保持増進・安全対策」(27%、H29 28%)、「自分で計画を立て家庭学習」29.2%、「部活動と学習の両立」28.1%である。どの項目もこの3年間の推移は同様であった。

昨年度今年度と様々な災害が続く状況を鑑み、今まで以上に防災意識向上のための取組みや基礎学力を引き上げ、自己実現につなげていくための工夫が必要である。

①そう思う ②どちらかというと思う ③どちらかというと思わない ④そうは思わない		令和元年度		平成30年度	
		割合	数値	全体	
				割合	数値
学校生活は満足していて、	①	55.9%	3.42	50.5%	3.32
入学してよかったと思っている。	②	33.6%		35.8%	
学校は教育方針や教育計画を	①	27.2%	3.02	25.7%	2.96
わかりやすく示している。	②	51.5%		49.8%	
学校は授業以外の講習や補習など、	①	52.1%	3.42	52.1%	3.39
学力向上のための場を設定している。	②	39.1%		37.2%	
自分で計画を立て、	①	29.8%	2.91	28.8%	2.90
家庭で学習する時間を待つように努力している。	②	39.5%		40.7%	
自分のスケジュールを管理し、	①	28.1%	2.91	25.8%	2.83
学校行事や部活動と学習の両立ができています。	②	41.5%		40.1%	
自分は部活動に意欲的に参加していて、	①	57.4%	3.43	50.2%	3.31
成長していると思う。	②	31.2%		35.0%	
自分は学園祭や体育大会など	①	50.9%	3.34	48.3%	3.28
学校行事に積極的に、楽しく参加している。	②	35.6%		36.3%	
自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う。	①	35.7%	3.08	32.0%	2.95
	②	42.6%		40.9%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点として平均を出したものの。

数値が大きいほうが評価は大きい。

保 護 者 編

全 15 項目のうち「①そう思う②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者が 80% を超えた項目は、10 項目 (H30 11 項目、H29 11 項目) で、昨年より「子供の健康や安全の配慮」がわずかながらポイントを下げた。

全体的には 4 項目で昨年の評価を上回ったが、残りの 11 項目では少しずつではあるが、減少した。

- 最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強い肯定が 53.4% (H30 55%、H29 55%) で若干下げたものの、肯定的な回答は 93.9% と昨年を 3.6 ポイント上回っている。今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。
- 強い肯定が 20% 未満の項目は「施設設備・学習環境」1 項目でこの項目だけはここ数年続いており、建物の老朽化を保護者から数多く指摘を受けている。また、「学習指導」については 20.1% (H30 21.6%)、「授業以外での学力増強の取組み」は 21.9% (H31 25.1%) と楽観できない結果である。引き続き改善策を講じていく。
- 保護者、生徒共に学校行事や部活動など積極的に参加することについては肯定度は高いが、「保護者の期待や願いに応える」の肯定が 89.2% で昨年より 1% 下がったことは重く受け止め、引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にする取り組みを進めていきたい。

①そう思う ②どちらかというと思う ③どちらかというと思わない ④そうは思わない		令和元年度		平成30年度	
		全体		全体	
		割合	数値	割合	数値
学校は保護者の願いや期待に 応えようと努力している。	①	33.0%	3.21	37.7%	3.26
	②	56.2%		52.4%	
学校の学習指導によって、 学力が向上し満足している。	①	20.1%	2.75	21.6%	2.79
	②	42.6%		44.4%	
学校は子どもの健康や安全に 十分に配慮している。	①	26.3%	3.00	31.1%	3.16
	②	52.0%		55.7%	
学校は授業以外でも 学力増進のための教育活動に取り組んでいる。	①	21.9%	2.86	25.1%	2.94
	②	46.9%		47.9%	
施設設備の面で、 学校の学習環境は整備されている。	①	11.5%	2.33	12.0%	2.39
	②	32.3%		33.4%	
入学させて良かったと満足している。	①	53.4%	3.47	55.2%	3.43
	②	40.5%		35.1%	

数値は回答の① 4点② 3点③ 2点④ 1点として平均を出したものの。

数値が大きいほうが評価は大きい。

教 職 員 編

肯定的な回答が80%を上回ったのは5項目で「高い教育力を発揮している」項目では昨年より大きく10ポイント下がった。また、昨年度を上回った項目は9項目、下回った項目は6項目で、否定的な項目が上回ったのは「PDCA サイクルに沿った改善思考」で、学校経営、学校教育の根幹というべき点において低い評価であったことを真摯に受け止め、改善を急務としたい。

- 「教育相談」「人権教育」でやや数値が向上した。人権教育推進委員会を設置し、一定の理解を深めつつあるが、60%で十分とは言えない。教育相談体制は6%向上し（86.5%）生徒に寄り添いながら、生徒の観察及び指導がなされていると感じている。
- 「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」については、94%と高い数字となっている。授業力向上委員会の引き続き授業研究の取り組みを進めていく。
- 一方で、「生徒の学力伸長・進路実現」については昨年より19.6%も落ち込んでいる。「③どちらかといえばそう思わない」が例年になく2割強の教職員が感じている。組織として取り組む姿勢が問われている。
- 「生徒の健康・安全」は保護者と相反して88.5%と高い評価となっている。昨年度より改善したという意味で高い評価となっていると分析するが、内容等をどのように発信するかが課題。
- 「各教科での学習指導計画・評価に対する十分な議論」「教授法・教材研究・生徒と向き合う時間等時間の確保」では数値が落ち込んでいる。また、「特別活動・部活動の重要性」では96.1%と高い評価となっており、生徒指導は重要であるが、十分にその時間が確保できていない状況がうかがえる。以前から長時間勤務が問題となっており、今後の教員減に伴う分掌業務の精査や学校行事の在り方等についても再考していく必要がある。

①そう思う ②どちらかというと思う ③どちらかというと思わない ④そうは思わない	令和元年度		平成30年度	
	割合	数値	割合	数値
学校にはPDCAサイクルに沿った改善思考が浸透している。	① 5.8%	2.40	11.5%	2.54
	② 36.5%		38.5%	
学校は生徒の学力伸長や進路実現のために 一体となって取り組んでいる。	① 21.2%	2.88	21.2%	2.96
	② 51.9%		61.5%	
学校は生徒の健康や安全に十分配慮している。	① 30.8%	3.17	51.9%	3.33
	② 57.7%		32.7%	
学校の特別活動や部活動は人間力を 育成する上で大きな意味がある。	① 69.2%	3.65	69.2%	3.62
	② 26.9%		25.0%	
学校の教育相談体制は十分に機能している。	① 28.8%	3.15	42.3%	3.23
	② 57.7%		38.5%	
学校の人権教育体制は十分に機能している。	① 11.5%	2.69	9.6%	2.52
	② 48.1%		42.3%	
自分は指導内容・方法など工夫・改善をおこない、 生徒の意欲喚起に努めている。	① 41.2%	3.35	53.8%	3.46
	② 52.9%		38.5%	

数値は回答の①4点②3点③2点④1点として平均を出したもの。

数値が大きいほうが評価は大きい。